

素直で礼儀正しい子（徳）たくましく学び合う子（知）明るく元気な子（体）



学校だより

雪小っ子

NO. 13

西海市立雪浦小学校

校長 浅田 眞理

平成29年 5月22日 発行

またも本校のことが長崎新聞に！

ケーナで温かい音

教室から温かい音色が聞こえてきました。5、6年生が、南米の民族楽器のたて笛「ケーナ」を吹いています。「手の動かし方で音の出方がちがうから面白い」と6年生の坪川悠翔君（11）は、学校では南米の民族音楽「フォルクローレ」を演奏する地域住民に学ぼうと、15年ほど前から取り組んでいます。

毎年10月、5年生がケーナを竹で手作り、南米についても勉強します。大人でも音を出すのに苦労するそうですが、子どもたちは練習を重ね、校内の学習発表会や市の小・中学校総合文化祭などで披露しています。

児童数減少で、げた箱がへったことにより玄関にできた空間を生かしたロビーコンサートも開催。プロの演奏に年5回ふれています。

雪浦は、きれいな海や川など自然がゆたかです。2015年には、アカウミガメが砂浜に来て産卵し、13年ぶりに子ガメがふ化。子どもたちは、日本ウミガメ協会の水族館の専門家からウミガメの特徴や産卵の仕組みを学び、貴重なふ化の様子も見守りました。

昨年は見られなかったウミガメ。「今年に来ていっぱい卵を産んでほしいな」と6年生の平松妃那さん（11）は、待ちに待っています。（畠野沙織）

ケーナの練習をする5、6年生

とっても貴重なウミガメのふ化を見たよ！（雪浦小提供）

◆学校メモ 浅田眞理校長、児童数32人、1873（明治6）年創立。2年前から、全校で給食を食べる「ランチルームが復活」。

上の記事は、先週月曜日、修学旅行出発前日に取材を受けた時のものです。昨年度もたくさんの記事が新聞に掲載されましたが、このように学校のことが記事になるのは嬉しいことですね。逆に言えば、新聞に本校の記事が掲載されるよう、今後とも特色ある学校づくりに励んで参ります。（5月20日の長崎新聞記事より）

地域と連携した教育活動の実践

18日（木）・19日（金）の両日、恒例の真珠園との交流活動が行われました。18日は本校において、19日は3・4年生が真珠園の方に出かけて、花の苗植え・花壇づくりの活動が行われました。校地内が花でいっぱいになることは、美しい教育環境に喜びをもたせることにつながりますし、何よりお世話するを通してやさしさの醸成・心の教育の充実につながります。今年も2回活動を予定していますが、たくさんの花苗の提供をしてくださる真珠園の皆様には心より感謝しています。ありがとうございます。



☆ 社会体育：雪小バレーボールクラブの保護者の皆様が、昨日21日（日）、運動場の草刈りを行ってくださいました。お陰で美しい運動場に変身です。暑い中の作業、誠にありがとうございました。